

第19回青梅市梅の里再生計画推進委員会議事要旨

日 時 令和元年12月26日(木) 15:00～16:34

場 所 青梅市役所議会棟大会議室

出席者 委員 11名

深澤委員、野崎委員、石川(清)委員、高野委員、井上委員、渡邊委員、石川(毅)委員、
鈴木委員、廣田委員、原島委員、越前委員

オブザーバー 1名

東京都西多摩農業改良普及センター 久保田所長

事務局 9名

市長、経済スポーツ部長、梅の里再生担当主幹、商工観光課長、公園緑地課長、農林水産課長、梅の里再生担当主査(1名)、梅の里再生担当主事(2名)

1 あいさつ

2 報告事項

- (1) 青梅市における強化対策地区のウメ輪紋ウイルス対策の見直しおよび再植栽地区の拡大について(資料1-1、1-2、1-3、1-4)
- (2) 令和元年度強化対策地区内感染状況調査結果等について(資料2)
- (3) 梅の里再生事業に係わる令和元年度の寄付等の状況について(資料3)
- (4) 農地への梅の再植栽について(資料4)
- (5) 梅の公園梅樹植栽工事等の予定について(資料5-1、5-2、5-3)
- (6) 吉野梅郷梅まつり実施計画について(資料6)
- (7) 令和元年度再植栽予定一覧 (令和元年12月15日現在)

担当課等	植栽場所	植栽樹数(本)	植栽時期
公園緑地課	梅の公園 畑中公園 宮ノ平駅前広場 日向和田2丁目児童遊園 二俣尾3丁目児童遊園	97	調整中
商工観光課 (梅の里再生担当)	中道梅園	2	1月
農林水産課	農家 (強化対策地区内)	215	12月 ～1月
観光協会	オープンガーデン (7か所)	39	12月 ～1月
合計 353本			

*日高市等の苗木239本のうち、児童遊園等に9本、オープンガーデンに15本が植栽される。

3 その他

- 配布資料 (資料1-1) 青梅市における強化対策地区のウメ輪紋ウイルス対策の見直しおよび再植栽地区の拡大について
(資料1-2) プラムポックスウイルス防除区域等における再植栽申請書の提出について
(資料1-3) プラムポックスウイルス防除区域等における再植栽について
(資料1-4) 強化対策地区図
(資料2) 令和元年度強化対策地区内感染状況調査結果等について
(資料3) 梅の里再生事業に係わる令和元年度の寄付等の状況について
(資料4) 農地への梅の再植栽について
(資料5-1) 令和元年度梅の公園梅樹植栽工事等の予定について
(資料5-2) 植栽計画平面図(令和元年度)
(資料5-3) 台風19号による崩落箇所
(資料6) 吉野梅郷梅まつり実施計画

議 事

1 あいさつ

市長

- ・本日は大変お忙しい中、御出席をいただき厚くお礼申し上げます。5月に農林水産省において開催された「令和元年度ウメ輪紋ウイルス対策検討会」において防除対策の見直しが提言され、その後対策の内容が再検討された結果、国の基準の見直しが行われ、再植栽される地区が拡大されることになりました。
- ・本日は、「強化対策地区内感染状況調査結果」や「寄付の状況」、「農地への梅の再植栽」とともに「梅の公園の梅樹植栽・施設整備の予定」や「梅まつりの実施計画」についての報告もありますので、委員の皆様のご意見をお聞かせくださいと存じます。
- ・本市の梅の里再生・復興事業が成果を上げてこられましたのも、委員の皆様のご尽力の賜物と感謝しています。今後もお一層の御指導、御協力をいただきますようお願いいたします。

委員長

- ・師走の大変お忙しいところ、梅の里再生計画推進委員会に御出席いただきありがとうございます。本日で会議も第19回となり、再生計画に従い着々と進めてきた十年ですが、再植栽もできましたのでこれから梅が大きく育っていくのを待つのみと思っています。その間皆様には色々な御協力をいただき現在に至っているところです。
- ・今回は、新たな梅の里を作っていくということだけでなく、再生・復活を目指してきたわけですが、青梅にとって梅は重要ですので、大事に育てていきたいと思っております。
- ・本日の会議は報告事項が6つです。いろいろな変化がありますので、その辺の御理解をいただきながら進めていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

○配布資料の確認を行った。

2 報告事項

- (1) 青梅市における強化対策地区のウメ輪紋ウイルス対策の見直しおよび再植栽地区の拡大について

て

事務局

○資料1-1、1-2、1-3、1-4について説明した。(※省略)

委員

- ・強化対策地区の再植栽についてはわかっているが、市全体の状況はどうなっているのかお聞きしたい。

事務局

- ・国の今回の見直しによれば、一定の条件があるものの御岳山、富岡地区以外でも植栽可能とはなっていますが、一方で防除対策や感染状況調査を行う必要があり、植える木についても感染のないものを持ち込まねばならない状況を考えますと広く一般の家庭にまですぐに広げるのはなかなか厳しいと考えています。市としては慎重に取り扱っていきたいと思います。

委員長

- ・宿主植物とはどういうものなのか。

事務局

- ・ウメ、モモ、スモモなどの植物を指しています。

事務局

- ・国は、今後の対策の見直しのため、青梅市の場合は今まで通りの防除対策を行う一方、その他の地域は調査しない廃棄もしないという所もあり、いろいろな知見を集めているところです。
- ・現在の緊急防除対策の省令は、過去5年の延長を経て令和2年度までになっています。市長の公約にも「令和3年度に緊急防除区域からの解除」があり、このことについて国にも話をしており、令和2年度をもって国の緊急防除対策が終結に向かうのではないかと考えられているところです。
- ・今現在は、対策の見直しがあったとはいえ、再植栽樹の事前調査をする、木は感染の出ていないところから持ってくる、再植栽樹は登録して市が管理をするは継続していますので、その中で一般家庭まで広げるのは難しいと考えます。来年度以降、国がどう動いていくのかはまた逐次報告させていただきます。

(2) 令和元年度強化対策地区内感染状況調査結果等について

事務局

○資料2について説明した。(※省略)

委員

- ・調査本数の約8000本は庭木も含んでいると思いますが、感染は強化対策地区1がゼロで、地区2が2本、地区3が6本という結果のうち、地区1がゼロとなっている要因は何かありますか。また地区2・3は感染が出ていても終息の方向なのか、相変わらずのレベルなのでしょうか。

事務局

- ・傾向としては、対策の結果その効果が現れていると考えます。昨年度強化対策地区3に初めて調査に入りましたが、32園地52本という結果でした。それが今年は6園地6本ですので、だいぶ効果があったと考えています。

委員

- ・近隣の市町村の調査結果はどうですか。

事務局

- ・平成30年度の結果ですが、あきる野市でいうと対象が14000本でそのうち50園地64本の感染確認でした。また羽村市は対象4500本のうち12園地12本の感染を確認しています。

委員

- ・事情があるのだらうとは思いますが、梅樹が隠れてしまうくらい草が茂っている所があります。何か対策を取ることができますか。

事務局

- ・農業委員会では農地パトロールの形で、主に生産緑地の肥培管理の指導を行っています。また農林水産課の方としては、もし草取り等管理が難しくなっているのであれば援農ボランティアの制度がありますので利用していただければと思います。

(3) 梅の里再生事業に係わる令和元年度の寄付等の状況について

事務局

○資料3について説明した。(※省略)

委員長

- ・基金の使い道はどうなっていますか。

事務局

- ・今年度は梅樹の植栽費用や梅の公園の施設整備等に充てる予定です。

(4) 農地への梅の再植栽について

事務局

○資料4について説明した。(※省略)

委員

- ・日高に残っている梅苗はもったいないので、無駄にしないで植えてもらいたい。他の地区でも植えられるようになると思います。

委員

- ・防除区域に指定されて10年が長すぎるのです。当初は植えようと思っていた人が高齢化で植えられなくなってしまい、予想以上に苗が残ってしまったということだと思います。早く地区を広げら

れるといいのですが。

(5) 梅の公園梅樹植栽工事等の予定について

事務局

○資料5-1、5-2、5-3について説明した。(※省略)

委員

- ・台風15号の被害はどうでしたか。

事務局

- ・大きな被害はありませんでした。

委員

- ・梅の公園の施設整備工事の転落防止柵の設置ですが、人命にかかわる事故が起こらないよう是非とも早くお願いしたい。

委員

- ・台風19号の復旧工事をやりながら観梅客を迎えるので、その旨がわかる表示をお願いしたい。
- ・サインの設置ですが、前回シンボルツリー植栽の提案もありましたが大きなものを持ってくるのは大変であるし、梅の公園の全伐によって今までの歴史がリセットされたのを踏まえて、それに代わるものをストーリーとして作っていくことを考えたらと提案します。例えば「ガイドが選んだ推薦する梅3種」とか「地元小学生が一番好んだ梅」、「農家が一番大事な梅」などというフレーズを品種名とともに表示するのも面白いのではと考えました。それによってお客さんが梅の品種だけでなく、地元とのつながりを感じる、吉野梅郷を感じるものとなると思います。
- ・また、以前にもお話したと思いますが、梅の時期だけでなく、カタクリの花やホタルの鑑賞、渡り鳥の観察などもできるので、その表示もあれば、私たちが目指している年間を通して楽しめる公園としてお客さんに納得していただけたと思います。東屋についても第一、第二のような番号だけでない思いのこもった特徴のある名称をつけていただきたいです。
- ・予算のこともありますが、公園内のサインがQRコード対応であったり、4か国語音声ガイド付きだとインバウンドの方たちにも大勢来ていただけたらと思います。

事務局

- ・サイン11基の設置が計画されておりますが、梅の公園自体の表示板と矢印での順路案内のほか、一番大きいのが、1枚目が公園の成り立ち、2枚目がプラムポックスウイルス確認から全伐・再植栽までの経過、3枚目が園内の案内図と3枚並べて設置するものとなっております。このほか梅の公園で見られる代表品種の案内もあり、一部画像で花の状態を見られるようなものもあります。今の委員さんの御意見のすべては盛り込まれてはいないと思いますが、このような形で公園の案内を準備しています。

委員

- ・園内の矢印の案内ですが、一つでもいいので、機械的でなく気持ちが伝わる案内の仕方が欲しいと

思います。例えば「30分で回れるコース」「何々が見られるコース」など、難しいかもしれませんがお願いしたいです。

事務局

- ・市としましては景観的なことも考慮しつつ考えていきたいとします。周回コースの案内についてはなかなか難しいので、今回の案には入っておりませんが、より良いものを作っていきたいとします。

委員

- ・シンボルツリーについてお話が出たので、要望したいとします。一番最初に梅の公園に植えた梅を記念樹として表示していただきたいということです。過去の記録を見返したところ、平成30年3月の推進委員会で、観梅客から「最初に植えた1本はどこか」と聞かれ案内した経緯が載っておりその時その木に何か表示ができないかとの要望がありました。そのあと副委員長から初めて植えた梅樹には思い入れがあるので、メモリアルな木としての表示をぜひお願いしたい旨の話もありました。そして私も多摩ケーブルテレビのインタビューで平成28年11月の植樹式で植えた6本のうちナンバー1番について紹介させていただき、その時何か表示があればと思った経緯が載っています。市の回答は来年に向けて考えていきたいとのことでした。さらに視察に行った筑波山梅林に筑波山神社の御祈祷による縁結びのパワースポットとして「福来（ふくれ）梅」という名の梅樹があったことも出てきます。以上のように青梅市観光協会、梅の里づくり実行委員会、吉野梅郷観光協会、吉野梅郷商店会の観光に携わる全員の思いを実行する時期、歴史を作る時期だと思っています。子供たちの願いを込めた植樹式も3年前に行いました。このようにヒストリーが十分ですので、今後の成長の期待を込めて記念樹としてぜひ扱っていただきたい。
- ・もう1点あります。平成29年12月の委員会の時に副委員長から以前の吉野梅郷は親木の梅や明白院のしだれ梅のようなシンボルツリー的な梅があり、それとともに農家さんの梅畑があり、梅園があるという地域だったので、これからは地図に載せることのできるシンボルツリーを作ってもらいたいとの要望がありました。私からもそろそろ名木となるような木、例えば金剛寺の「将門誓いの梅」から接ぎ木した木を植えるような議論をしていく必要がある、観光客に戻ってもらうため見ごたえがあるものが必要だと話した経緯があります。その後今年の4月の推進委員会でボランティアガイドが「これは何々」と説明できるような命名された木があってもよいのではとの話が出た際、他の委員から、金剛寺の了解のもと樹苗養成振興会で枝をもらって接ぎ木をし、今寺の畑で「将門誓いの梅」を育てているので、ぜひ無駄にせず記念の所に植えてほしいとの話が出ました。さらに他の委員からも由緒のあるものなので市でも考えてぜひ植えてほしいとの意見が出ました。
- ・先程の話から行くと令和2年度は無理かもしれませんが、盛り上がっているこの時期のうちに、令和3年度にはぜひお願いしたい。

事務局

- ・まず梅の公園に植えた最初の6本の梅の表示につきましては、梅まつり前までには何かしらの形で考えていきたいとします。
- ・シンボルツリーの関係ですが、梅の公園は1200本の植栽を目安としており、今年度88本植えて1242本になると報告しておりますが、将来的にはあと30本程度植えられるのではないかと考えています。現在144品種を集めていますが、まだ青梅で生まれた品種を植えることができ

ておりません。将来市内で梅の移動が可能になれば、お話のあった金剛寺の梅も植えることができるのではと考えます。

委員

・彼岸花のことですが、花の色は何色ですか。

事務局

・赤のみになります。黄色や白は、リコリスと呼ばれるもので、しょうぶ公園や霞丘陵自然公園などには植えているのですが、開花時期がずれてしまい一面で咲いてくれないので、梅の公園は赤のみにしています。

委員

・彼岸花の球根17500球は2年分ですか。

事務局

・17500球は今年植えた数です。去年は22500球です。秋の彼岸に間に合うよう夏前に植えています。

委員

・増えているはずなのに去年より今年の花が少なくなっているように思えたのですが。

事務局

・単純に言うると多くなっているはずですが、少なかったのは気候の関係ではないかと考えています。今年の夏は暑かったので、咲くのも遅れました。

委員

・今後花の数が増えていってくれるといいと思います。斜面に植えている所は他にないように思うのであちこちにPRしていきたいと考えています。将来「巾着田」以上になってくれたらうれしい。春だけでなく秋も楽しんでほしいので、サイン設置の際にはその対応もお願いします。

委員

・駐車場の件ですが、梅郷にあるドラッグストア東側の市の駐車場に現在下水道工事のため土が入っています。工事はいつ頃終わるのでしょうか。元々少ない駐車場がますます少なくなるので、梅まつり期間中は使えるようにしてほしい。

委員

・その駐車場は、3月8日の観梅市民まつりの時に騎馬隊が来るので、消防署の待機場所としてお願いしています。停められなくなると大変なので、至急確認をお願いしたい。

事務局

・至急確認いたします。

(6) 吉野梅郷梅まつり実施計画について

事務局

○資料6について説明した。(※省略)

委員

- ・前回の梅まつりは前々回より約1000人少なかったので、今年度の梅まつりは、目標の8万人に向かってあらゆる手立てを使い、観梅客がたくさん来てくれるようお願いしたい。

事務局

- ・JRの方では、青梅線を「アドベンチャーライン」と銘打ち重視していることもあり、「梅まつり」もPRしていきたいとのことなので今後その点を詰めていきたいと考えています。

委員

- ・日向和田駅前にある梅の木周辺の雑草が観光的にマイナスイメージを与えています。JRが梅まつりのPRをしていただけるとの話もあったので、ぜひあの雑草は観光地として情けないのできれいにしよう交渉をお願いしたいです。

事務局

- ・今後協議をしていきたいと考えます。

事務局

- ・今の日向和田駅の梅の話は以前からあることは承知しています。梅の木がフェンスで囲われていない一般の人が入っていけない場所にあるため、話が進んでいなかったのですが、青梅駅長もその話は承知しています。さらに進めていきたいと考えています。

(7) 令和元年度再植栽予定一覧

事務局

○一覧表について説明した。(※省略)

- ・特になし

3 その他

委員

- ・2月29日に「令和」考案者の中西進先生による特別講演会があります。ついでには元号が「令和」となった記念に先生に命名してもらった梅樹を植樹できないかと考えています。
- ・先日新聞で吉川英治記念館が市の施設になるとの記事を読み、今後の英治記念館の運営を考えると、施設内に梅樹を植えることができれば観光客を呼び込む企画になるのではと思いました。市長からも吉川英治記念館を発展させたいとの発言があったとのことですので、青梅の観光の一助となるようぜひ植栽について考えていただきたい。

事務局

- ・吉川英治記念館は4月を目途に財団と詳細を詰め、9月の英治忌に合わせて再オープンする方向で進んでいます。
- ・先程の梅の命名の件ですが、梅の公園に最初に植えた6本につけていただくことも可能かなと考えます。また英治記念館の植栽については「将門誓いの梅」の苗が複数あるので、自由に植えられるようになれば、梅の公園、中道梅園、オープンガーデン、英治記念館等を巡れるように植栽する案も考えられます。
- ・令和3年度に向けて頑張っていきたいので、今後ともぜひご協力をお願いします。

委員長

- ・以上で、第19回梅の里再生計画推進委員会を終了します。